

令和7年度西条市議会議会報告会

実施結果報告書

～市民の声を市政へつなぐ取組～



西条市議会
マスコットキャラクター
みずき議員



報告書目次

1	はじめに	1
2	開催趣旨	2
3	実施概要	3
4	総務委員会 実施結果	4
5	福祉文教委員会 実施結果	8
6	産業建設委員会 実施結果	12
7	参加者アンケート結果（グラフ・分析）	16
8	市民の声（自由記述・抜粋掲載）	20
9	成果と今後の課題	21
10	おわりに	22



1 はじめに

西条市議会では、市民の皆さまと直接お話しし、日々の暮らしの中で感じておられる思いや御意見を、これからの市政や議会活動に活かしていくことを目的として、市議会報告会を開催いたしました。当日は、多くの皆さまに御参加いただき、率直であたたかいお声をお寄せいただきました。一つ一つのお話には、それぞれの立場や経験に基づいた大切な思いが込められており、私たち議員にとっても、あらためて学ばせていただく貴重な時間となりました。

今回いただいた多くの声は、どれも西条市への深い愛情と期待にあふれたものであり、市議会として大切に受け止めて参ります。私たちは、皆さまからお預かりした声を、今後の議論や政策提言につなげ、少しでも暮らしやすい西条市をつくっていけるよう、引き続き努力して参ります。これからも、市民の皆さまと心を通わせながら、身近で親しみのある議会を目指して参ります。御参加いただいた皆さまに、心より感謝申し上げます。

令和8年2月

西条市議会議長

川又 由美恵

2 開催趣旨

西条市議会では、市民の皆さまと直接対話し、日々の暮らしの中で感じておられる課題や御意見を、今後の議会活動及び市政運営に反映させることを目的として、各常任委員会（予算委員会を除く）による議会報告会を実施しました。

市政を取り巻く環境は、人口減少や少子高齢化、産業や雇用の変化、教育・子育て環境の多様化、防災・減災への対応など、年々複雑化しています。こうした課題に適切に対応していくためには、行政資料や統計だけでなく、市民の皆さまの生活実感や現場の声を丁寧に受け止めることが重要です。

議会報告会は、議会活動をお伝えする場であると同時に、市民の皆さまから率直な御意見を伺い、今後の政策づくりに活かすための大切な機会です。日々感じている不便さや将来への不安、地域への期待は、課題解決に向けた重要な手がかりとなります。

令和7年度は、各常任委員会がテーマを設定し、参加者との意見交換を通じて、現場の実感に基づく課題を把握し、政策提言や市民サービスの向上につなげる取組として開催しました。いただいた御意見は、委員会審議や議会内での議論に活用し、必要に応じて執行部との連携や調査を行い、改善策の検討につなげて参ります。

また、議会としての検討状況や取組の進捗についても、市民の皆さまに分かりやすくお伝えできるよう、情報発信の充実に努めます。今後も市民の皆さまと対話を重ね、身近で開かれた議会運営を通じて、より暮らしやすい西条市の実現を目指して参ります。

3 実施概要

本年度は、以下の3常任委員会において議会報告会を開催しました。

総務委員会 : 令和8年 1月17日 / 西条市立西条図書館
福祉文教委員会 : 令和7年12月12日 / 西条市中央公民館
産業建設委員会 : 令和8年 1月16日 / 周桑商工会館

各会場では、議会活動の説明に加え、市民との意見交換（グループワーク等）を実施し、参加者から多様な意見をいただきました。



4 総務委員会 実施結果

(1) 開催概要

名称：令和7年度 西条市議会 総務委員会 議会報告会

日時：令和8年1月17日（土）14：00～15：30

場所：西条市立西条図書館

参加議員（8名）

佐伯 利彦、玉置 公正、柳原 政彦、越智 由美子

川又 由美恵、城戸 力、行元 博、武田 功

参加者

高校生11名、消防団7名、移住者7名

(2) 内容（プログラム）

① 開会

② 議員紹介

③ 委員長挨拶

④ 議会の説明・施策の紹介

⑤ グループワーク

高校生 [テーマ：SDGs、投票率の向上]

消防団 [テーマ：消防、防災]

移住者 [テーマ：人口減少対策、移住施策]

⑥ 発表・質疑応答

⑦ 委員長謝辞

⑧ 閉会

(3) 意見交換で出された主な内容

ア 高校生 [テーマ：SDGs、投票率の向上]

SDGsについては、2030年までの国際目標であることを確認した上で、日常の取組として、教室移動の際の消灯、節水節電などが紹介されました。学校での取組として、探究活動を通じた質の高い学習や英語教育、マルチサイネージの活用、自販機の分別などが話題となりました。竹の環境学習や竹林管理、竹チップの作成、ダンボールコンポストなど、地域資源を活かした活動も共有されました。

投票率の向上については、20歳未満の投票率が低いこと、18歳から20歳までの投票率が約18%であることが話題となりました。進学で地元を離れる人が多いことから、進学先での不在者投票の活用が提案されました。一方で、宣誓書の申請や投票用紙の郵送・返送など一定の時間がかかるため、基本は居住地に住民票を移すべきとの意見もありました。過去の事例として、高校に投票できるバスが来て投票できた経験が紹介され、同様の取組ができればよいとの意見がありました。

その他の意見として、伊予西条駅自転車置場の整備、教育への投資（海外留学費用やスタディツアーへの補助）、校則に関してアルバイトを認めてほしいという要望がありました。



イ 消防団 [テーマ：消防、防災]

消防団員の減少について、団員定数 1, 673 人に対し、現在 1, 380 人であり、約 300 人弱が不足していることが示されました。災害対策は人員による対応が重要であり、人員不足は防災上深刻な問題であるとの意見がありました。

共済保険については、団員数ではなく定数で保険料が算定されるしくみのため、団員が減るほど一人当たりの負担が増えるという課題が示されました。本市消防団全体では定数との差額分で年間 600 万円の負担が生じているとの説明があり、定数の見直し、又は実質人員での保険料算定への変更を求める声がありました。

人員確保策として、民間企業等への協力促進を求める意見がありました。例えば民間建設業者等で消防団加入を推進している企業を、入札や工事点数で優遇する制度を進めてほしいという意見が出されました。

資機材の支給については、夜間出動や夜間訓練の安全確保のため、東西の師団に発電機（1機当たり 15 万円程度）を設置してほしいとの要望がありました。また、照明器具としてバルーン照明の設置要望もありました。火災現場の残火処理における火傷リスクが指摘され、耐熱手袋の全団員への支給、釘等による危険を踏まえた鉄板入り長靴の支給を求める意見がありました。



ウ 移住者 [テーマ：人口減少対策、移住施策]

移住者からは、旧西条市は「田舎すぎず都会すぎずちょうどよい」との評価があり、水道代が無料であることに驚いたとの声がありました。一方で、水が豊かだと思って移住したが、市役所に「節水」と書いてあることに驚いたとの意見もありました。

生活面では、衣料品を買う場所が少ない、公共交通が不便であるといった声がありました。移住を検討している人が一時的に住む場所（お試し住宅等）が必要であること、賃貸の一軒家が少ないこと、空き家活用や空き家バンクに出せない家の問題、近隣住環境の問題などが課題として挙げられました。また、移住者の目的や希望に合う移住サポートの必要性が示されました。

雇用面では、人材確保に困っている自営業者が多いことから、雇用確保と移住者の呼び込みをつなぐ、ニッチなプラットフォームの必要性が提案されました。



5 福祉文教委員会 実施結果

(1) 開催概要

名称：令和7年度 西条市議会 福祉文教委員会 議会報告会
日時：令和7年12月12日（金）20：30～22：00
場所：西条市中央公民館

参加議員（9名）

高橋 保、森川 亜紀、高木 新治、八木 邦靖、伊藤 良二
真鍋 顕伸、高橋 章哲、越智 俊幸、伊藤 孝司

参加者

西条市PTA連合会役員（各校PTA会長含む）28名

(2) 内容（プログラム）

- ① 開会
- ② 委員長挨拶
- ③ 議員紹介
- ④ 議会の説明・施策の紹介
- ⑤ グループワーク [テーマ：学校規模適正化について]
(3班に分かれて実施)
- ⑥ 委員長謝辞
- ⑦ 閉会

(3) 意見交換で出された主な内容

学校再編に関し、「市長は地域の合意というが、どのように合意するか説明がない」との意見がありました。一方で、学校規模・適正配置等審議会で議論したメンバーとして「計画通り進めてほしい」という意見もあり、立場や経験により受け止めが異なることが確認されました。

「この問題に直面するのは若い世代であり、特にこれから入学を控える保護者にも意見を求めるべきではないか」との声がありました。説明会に参加した参加者からは、「提示された資料が反対に誘導するような内容で公平とは思えなかった」との意見も出され、情報提供の在り方について課題が示されました。

また、行政が協議会の立ち上げ等をPTAに任せていると感じるとの意見があり、「政治の影響で教育環境がコロコロ変わるのはやめてほしい。学校規模・適正配置等審議会で結論を得た内容で進めるべき」といった声がありました。

学校が地域にあることと地域コミュニティの維持については、「学校があっても人口減少で地域コミュニティは衰退している。学校があれば地域は安泰というわけではない」との意見がありました。一方で、庄内小学校で複式学級が始まったこと、教員配置が減り環境が変わったことから、「適正化してクラス編成ができる規模にする必要がある」との意見もありました。アンケートで8割が賛成しているとの言及もありました。

安全面に関しては、部活動の選択や通学班の振り分けが難しく、地区に1人しかいない場合は1人で登下校するため、防犯面で心配との意見がありました。複式学級が発生したが、教頭先生が学級を持つことで回避できたとの事例も共有され、「適正化が進んでいないので要望書も提出した」との意見がありました。

また、地域では反対の声もあるが「10人程度の学校でも不登校の子がいた」という意見もあり、規模だけでは語れない課題が示されました。運動・スポーツの選択肢につ

いては、「男の子が入るスポーツがない」「他校との合同になったら一から始めなければならない」「コミュニケーションが取りづらい」といった声があり、「早く適正化を進めてほしい」との意見がありました。

予算面では「適正化が進まないため予算が取りづらくなっているのではないか。学校のトイレ改修が必要だが予算がつかない」との意見がありました。保護者の意見の取り扱いについては、「学校に通う保護者の意見を大事にしてほしい」「表に出ている意見が真の保護者の声とは限らない」との意見がありました。

要望書については「PTA連合会統一ではなく、自治会長に確認すると、一部の意見である」との指摘がありました。適正化が進まなければ「児童数の多い学校への転居を検討している保護者が複数いる」「このまま進まなければ地域から子育て世代がいなくなるおそれがある」との意見もありました。

意見表明の環境については、「地域のお年寄りの意見が強く発言しにくい」との声がありました。学校現場については、「すでに限界状態で、これ以上の負担増は現実的でない」との指摘がありました。

進め方については、「本来はパブリックコメント→計画策定→協議会設置→地域協議→条例化→議会決定という丁寧なプロセスが必要ではないか」との意見がありました。現状は「意見聴取段階にとどまり、いつ・どの段階で具体化されるのか不透明」との声もありました。地域ごとの事情が大きく、一律に進めることへの懸念も示されました。

総じて「子どもの利益を最優先に考えるべきで、地域感情に流されすぎるべきではない」との意見も出され、今後の議論に当たって重要な観点として共有されました。



6 産業建設委員会 実施結果

(1) 開催概要

名称：令和7年度 西条市議会 産業建設委員会 議会報告会

日時：令和8年1月16日（金）19：00～20：30

場所：周桑商工会館

参加議員（7名）

井上 浩二、高橋 淑子、渡部 勤文、日野 克則

三好 和彦、藤井 武彦、一色 輝雄

参加者

周桑商工会員 6名

(2) 内容（プログラム）

① 開会

② 議員紹介

③ 委員長挨拶

④ 議会の説明・施策の紹介

⑤ グループワーク

[テーマ：事業承継について、地場産業について]

⑥ 委員長謝辞

⑦ 閉会

(3) 意見交換で出された主な内容

ア 事業承継について

事業承継は事業者にとって最も厄介な問題であるとの意見がありました。親族内承継が可能であれば、後継者の早期決定により長期の準備期間を確保できるとの認識が示されました。業種により継承の条件が異なる場合があり、子どもが県外で別の仕事をしている、後を継ぎたくないといった状況も多いとの意見がありました。

親族承継の成功例として、子どもが親の事業所で働いており、経営者の高齢化に伴い職責を全うできなくなった場合に比較的うまくいくことがある一方で、頭のすげ替えだけでは済まず、税金対策で失敗した例もあり、慎重な準備の必要性が述べられました。後悔しないために、M&A（銀行や税理士）や西条産業情報支援センター等を利用し、新しい経営者に過度な負担がかからないようにする必要があるとの意見がありました。

従業員承継については、経営者としての能力のある人材を見極めて承継できること、近年割合が増加傾向にあり支援策も整いつつあることが共有されました。助言機関として西条産業情報支援センター等を活用すべきとの意見がありました。なお、親族株主の了解を得ることが重要であるとの指摘もありました。

第三者承継については、株式譲渡や事業譲渡により社外の第三者へ引き継ぐ方法が説明されました。親族・社内に適任者がいない場合も外部に候補を求められる一方で、じゅうぶんな時間的余裕を持って臨む必要があるとの意見がありました。

周桑商工会における事業承継相談の状況について確認したところ、相談は少ないとのことであり、現状として事業承継への危機感がじゅうぶんではないのではないかとの課題認識が示されました。

グループで挙げた課題として、少子高齢化の中で子どもが県外に進学し戻らないこと、自分の代で事業を終える人が多いこと、事業継続診断シートによる確認では、約3分の2が後継者不在と回答していること、購買行動がスマホ中心となり地元店で買わない時代になったこと、仕事で使う機器が高額で買い換えられないこと、農業をしたくても農機具が高額で限界があることなどが共有されました。また、事業を辞めると商工会や地域でがんばる人が減り、地域を盛り上げる世話役がいなくなるという指摘があり、「地域を元気にしないと事業承継につながらない」との意見がありました。子どもたちに「ふるさと西条市」をしっかりと植え付けること、官民でいっしょに地域力をつけていく必要性が示されました。

議員側からは、補助金・助成金、マッチング等の情報共有の重要性、日頃からの地域コミュニケーションのたいせつさが述べられました。

イ 地場産業について

地場産業の育成は聞こえは良いが、経営母体が小さいため後継者がいなければ消滅していくのが現実であるとの認識が示されました。西条市の地場産業として、東予の国安和紙や石田の和紙等が挙げられましたが、時代の流れやコロナ禍により需要が減少しているとの意見がありました。また、小松では、渋うちわ・ホラ貝があったが廃業となったこと、丹原では、断層もなか・県道ようかんがあったが後継者不在で廃業となったことが紹介されました。

現在、西条市で地場産業といえるものとして小松の石鎚黒茶くらいしか見当たらないとの意見もありました。市としてじゅうぶんな資金支援が難しくても、宣伝への協力など支援できることはあるのではないかとの意見がありました。時代の流れについていけないものは消滅する現実がある一方で、西条産業情報支援セ

ンター等を通じて長く続ける方法を模索できるのではないかとの意見もありました。古き良きものを大事にしながら、若い新しい発想で地場産業を育成してほしいとの希望が述べられました。



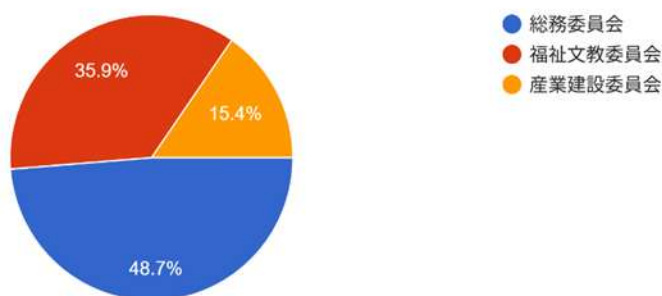
7 参加者アンケート結果（グラフ・分析）

回答数：39件

※アンケートはGoogleフォームにより実施
（全体傾向を把握するための設問構成）

【グラフ①】委員会別参加人数

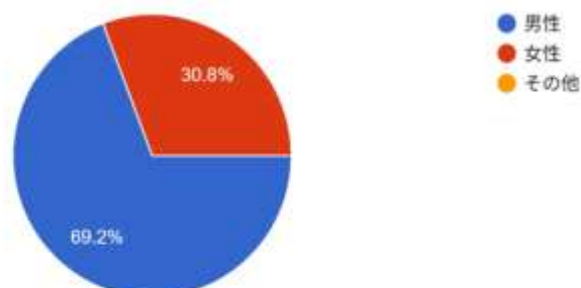
参加した議会報告会
39件の回答



備考：テーマ別開催が幅広い関心につながったことがうかがえます。特定分野だけに偏らず参加が見られたことは、市民の関心が多方面に及んでいることを示しています。

【グラフ②】性別

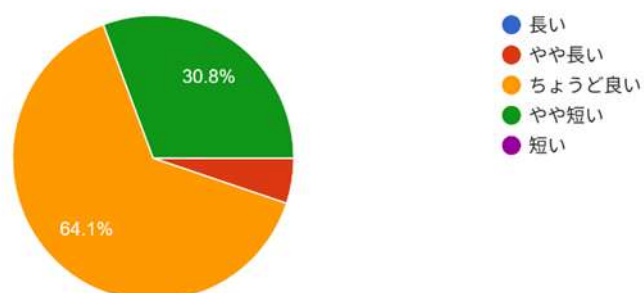
性別
39件の回答



備考：男性の参加が多い傾向となりました。今後、更に多様な層の参加を促すため、開催方法や広報の工夫が検討課題となります。

【グラフ③】開催時間の評価

議会報告会の時間設定について
39件の回答

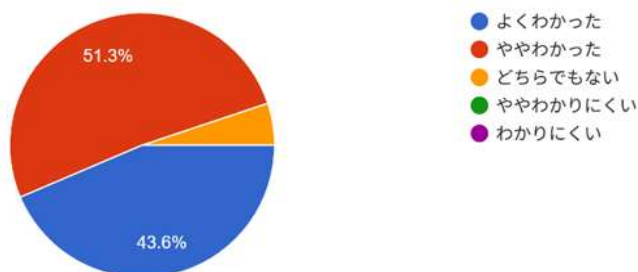


備考：「ちょうど良い」との評価が中心となる一方で、「やや短い」「やや長い」とされた参加者も一定数見られました。これは内容への関心が高く、より深い意見交換を求める声があることを示しています。

【グラフ④】 議会のしくみの理解度

議会のしくみについて

39件の回答

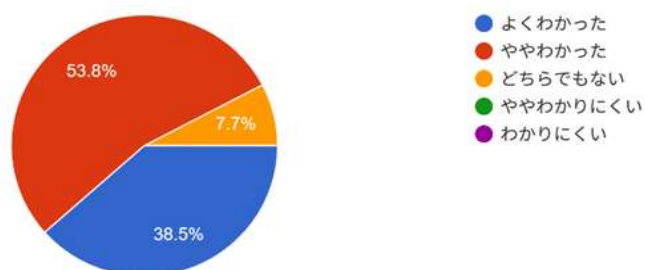


備考：「ややわかった」「よくわかった」が多数を占め、議会の役割や活動を説明する機会として一定の効果があつたと考えられます。今後は更に、用語や資料の分かりやすさなど、理解促進の工夫が必要となります。

【グラフ⑤】 市の施策の理解度

西条市の主な事業について

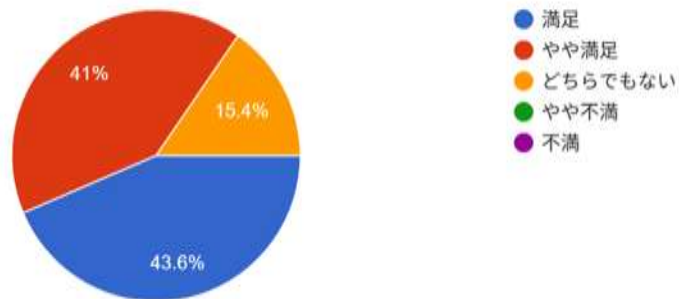
39件の回答



備考：施策の説明についても肯定的評価が中心でした。参加者の理解を支えるため、説明資料の構成やポイント整理の改善を継続する必要があります。

【グラフ⑥】意見交換の満足度

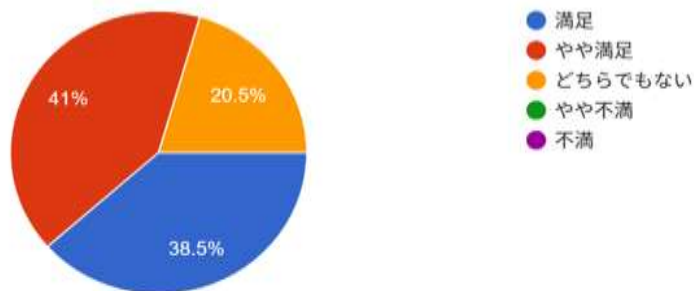
議員との意見交換について
39件の回答



備考：対話・意見交換の満足度は概ね高い傾向でした。市民が直接意見を述べ、議員が受け止める形式が評価された結果であると考えます。一方、意見交換の時間確保や進行方法の改善を求める声も、自由記述に見られました。

【グラフ⑦】総合評価

議会報告会の全体の評価について
39件の回答



備考：総合的に肯定的評価が多く見られました。今後は、参加者の期待に応えられるよう、内容の深度、資料、広報、開催形式について改善を積み重ねることが重要です。

8 市民の声（自由記述・抜粋掲載）

自由記述には、良い評価だけでなく、要望、提案、厳しい御指摘も含め、多様な意見が寄せられました。ここでは傾向が偏らないよう、代表的な意見を分類し、複数掲載します。（※個人が特定されないよう配慮し、趣旨を損なわない範囲で整理）

【1】評価・感謝

- ・議会の取組が分かりやすかった。
- ・議員と直接話す機会があり、有意義だった。
- ・今後も継続して開催してほしい。
- ・率直な意見交換ができて良かった。

【2】運営・説明に関する要望

- ・意見交換の時間をもう少し長くしてほしい。
- ・説明が早く感じた。資料があると理解しやすい。
- ・テーマが明確で参加しやすかった。今後もテーマ設定を工夫してほしい。
- ・もっと幅広い世代が参加できるようにしてほしい。

【3】政策・地域づくりへの提案

- ・若い世代が地域に関わる機会を増やしてほしい。
- ・移住者支援は住居・交通・仕事をセットで考えてほしい。
- ・防災は人員と装備の確保が不可欠。制度面の見直しも必要。
- ・事業承継は早期相談が重要。情報が届きやすいしくみがほしい。

【4】厳しい意見・課題提起

- ・説明が抽象的で分かりにくい部分があった。
- ・議会の成果が市民に見えにくい。
- ・市民の声を聞いた後、どう政策につながるか示してほしい。

9 成果と今後の課題

本年度の議会報告会は、テーマを定めた上で市民の皆さまと意見交換を行い、常任委員会ごとに現場の課題を具体的に把握できた点に意義がありました。特に、当事者の経験に基づく具体的な指摘が多く、議会として検討すべき論点が整理されました。

(1) 成果

- ・市民の声を直接伺うことで、課題の背景や現場の実情を具体的に把握できた。
- ・テーマ別開催により、参加者が話しやすく、議論の焦点が定まりやすかった。
- ・対話を通じ、議会活動や市の施策理解が進む機会となった。
- ・アンケート結果から、意見交換の場としておおむね良好な評価が得られた。

(2) 今後の課題

- ・各常任委員会において、今回得られた意見を委員会審議の論点整理に活用する。
- ・課題に応じて、執行部との情報共有を行い、必要に応じて調査・確認を進める。
- ・開催時間、資料の分かりやすさ、進行方法の改善に継続して取り組む。
- ・市民に対し、意見がどのように議会活動へ反映されたかを伝える工夫を行う（情報発信の充実）。
- ・より幅広い世代・属性の参加を促すため、開催手法・広報の改善を検討する。

10 おわりに

本報告書は、令和7年度に実施した各常任委員会の議会報告会について、実施内容と市民の皆さまの御意見を整理したものです。

御参加いただいた皆さまに改めて感謝申し上げます。

西条市議会は、今後も市民の皆さまとの対話を重ね、より良い市政運営と市民サービスの向上に向けて、議会活動の充実に取り組んで参ります。